2025年度　修士課程 春季 社会福祉学専攻臨床心理学領域

専門【出題意図】

全体の出題意図

本試験は、心理学の主要領域における**基礎概念の理解**と、それらを**研究法・心理アセスメント・臨床理論へと結びつけて考察する力**を総合的に評価することを目的としている。特に、①心理学的概念を簡潔かつ正確に説明する力、②研究法の特性を理解し、方法論的に比較検討できる力、③臨床心理学に固有の視点（アセスメント観・システム論的理解）を適切に言語化できる力を重視している。

1．用語説明問題（各 150 字程度）

出題意図（共通）

心理学の基礎理論・概念について、**定義、背景、意義を過不足なく説明する力**を評価する。単なる用語暗記ではなく、概念の理論的位置づけや心理学的意味を理解しているかを問う。

(1) 忘却曲線

記憶心理学における代表的知見として、時間経過と記憶保持の関係を理解しているかを確認する。学習や教育、臨床への応用可能性を踏まえた基礎理解を評価する。

(2) 内的整合性

心理検査の信頼性概念として、尺度構成や測定理論に関する基礎理解を測る。心理測定における妥当な評価の前提条件を理解しているかを問う。

(3) 図と地

知覚心理学・ゲシュタルト心理学の中核概念として、知覚の構造的特性を把握しているかを評価する。知覚が刺激の総和ではないことへの理解を確認する。

(4) レディネス

学習心理学・発達心理学にまたがる概念として、学習成立の前提条件や個体側要因を理解しているかを問う。教育・臨床的文脈での意義を把握しているかを評価する。

(5) 学習性無力感

動機づけや抑うつ理解に関わる重要概念として、学習理論と臨床心理学の接点を理解しているかを測定する。実験的知見と臨床的含意を結びつけられるかを確認する。

2．記述問題（各 800 字程度）

出題意図（共通）

心理学研究法・心理アセスメント・臨床理論について、**概念的理解、比較検討力、応用的思考力**を総合的に評価する。論理的構成、適切な用語使用、具体例の妥当性を重視する。

(1) 縦断的研究法と横断的研究法

発達研究や心理学研究全般における代表的研究デザインについて、それぞれの特徴・利点・限界を理解しているかを問う。抽象的説明にとどまらず、具体的研究例を用いて方法論的差

異を説明できるかを評価する。

(2) 心理検査における投映法の長所と問題点

心理アセスメントにおける投映法の理論的背景と役割を理解しているかを評価する。臨床的有用性と同時に、信頼性・妥当性などの方法論的課題を批判的に検討できるかを問う。

(3) IP（Identified Patient）という概念の意味

家族療法・システム論的視点に基づき、問題を個人内要因に還元しない理解ができているかを評価する。「IP」という呼称が示す理論的含意を、家族システム・相互作用・症状の機能という観点から説明できるかを問う。

以上の設問を通して、心理学の基礎知識を土台としつつ、研究・アセスメント・臨床理論を**統合的に理解し、専門的に言語化できる能力**を備えているかを判定することが、本試験全体の出題意図である。

2025 年（令和 7）年度
花園大学大学院　社会福祉学研究科　臨床心理学領域　春季募集
専門科目　入学試験問題

1.下記の語句について、それぞれ 150 字程度で説明しなさい。(8 点×5=40 点)

(1) 忘却曲線

エビングハウスの忘却曲線とは、一度覚えたことを再度覚え直すときの「時間の節約率（どれくらい減らせるのか)」を、覚えてからの経過時間軸で表した曲線のことです。

(2) 内的整合性

リッカート尺度などの心理尺度を構成する各項目が、全体として同じ概念を測定しているといえるかどうかを表す指標。内的一貫性ともいう。クロンバックのα係数を用いて評価することが多い。通常、α係数が 0.8 以上であれば内的整合性があり信頼性の高い尺度といえる。

(3) 図と地

ある物が他の物を背景として全体の中から浮き上がって明瞭に知覚されるとき、前者を図といい、背景に退く物を地という。

(4) レディネス

レディネスとは、学習の成立にとって必要な「前提となる知識や経験など」、「心身の準備性」を意味する言葉である。 レディネスがない場合は新しい学習は習得しにくいと言われている。 例えば、書き言葉を学習するためには話し言葉が十分に発達していることが望ましく、この場合、話し言葉は書き言葉のレディネスといえる。

(5) 学習性無力感

学習性無力感とは、長期にわたってストレスの回避困難な環境に置かれた人や動物は、その状況から逃れようとする努力すら行わなくなるという現象である。

2.下記の設問について、それぞれ 800 字程度で記述しなさい。(20 点×3=60 点)

(1) 縦断的研究法と横断的研究法について、具体的な研究例を挙げながらそれぞれの特徴について説明しなさい。

要因とアウトカムを同時に測定（＝対象者を 1 回だけ観察）する研究は，横断研究（Cross-sectional study）に分類される。

要因を一時点で測っておき，それと異なる時点のアウトカムを測定（＝対象者を 2 回以上繰り返し観察）するような研究を，縦断研究（Longitudinal study）と呼ぶ。

(2) 心理検査の投映法について、その長所と問題点について挙げつつ説明しなさい。

心理検査の**投映法（投影法）**とは、被験者の無意識や内面的な感情、思考、欲求などを明らかにするために、あいまいな刺激（絵、図、文章など）に対する反応を分析する方法です。代表的なものとしては、ロールシャッハ・テストや**TAT（主題統覚検査）**が挙げられます。

以下に、投映法の長所と問題点について説明します。

長所

1. **無意識の内容を探ることができる**
   投映法では、あいまいな刺激に対して被験者が自由に反応するため、無意識の欲望や葛藤、深層心理にアプローチしやすいとされています。意識的な制御が及びにくい反応を引き出せるため、**表面的には見えにくい心の状態**を探ることが可能です。
2. **被験者の自由度が高い**
   投映法では、被験者が言語や行動で自由に反応できるため、**固定的な回答に制限されない**のが特徴です。これにより、個々のパーソナリティや独自の視点が反映されやすくなります。
3. **防衛機制を突破しやすい**
   質問紙などの自己報告型の検査に比べ、投映法では被験者が自身の防衛機制（意識的に問題を隠そうとすること）を利用しにくいとされます。これにより、被験者が自覚していない感情や不安、葛藤が浮き彫りになることがあります。
4. **多面的な分析が可能**
   投映法の結果は**多様な視点から分析**できるため、心理学者が異なる解釈を行い、被験者の心理状態をより深く理解することができます。個々の解釈が異なるため、質的なデータとしても重視されます。

問題点

1. **主観的な解釈に依存しやすい**
   投映法の結果は、検査者の解釈に大きく依存するため、**信頼性や一貫性**に問題が生じる可能性があります。異なる検査者が同じ被験者の結果を解釈しても、異なる結論に達する場合があり、客観的な評価が難しいことがあります。
2. **標準化が難しい**
   投映法は、質問紙検査のような**明確な基準やスコアリングシステムがない**ため、結果の標準化が困難です。これにより、複数の検査者や異なる文化・言語背景を持つ被験者間での比較が難しくなります。
3. **時間と訓練が必要**
   投映法の解釈には、心理学者の**高度な訓練と経験**が必要です。また、結果を分析するのに時間がかかるため、**即座に結果を得ることができない**場合があります。被験者にとっても、長時間にわたるテストが負担になることがあります。
4. **外的要因の影響を受けやすい**

投映法の結果は、被験者の**一時的な感情状態や環境的な要因**に大きく影響されることがあります。例えば、ストレスが多い状況下で行われた場合、通常の状態とは異なる反応が出ることがあり、真の性格や無意識を反映していない可能性があります。

(3) 家族療法において、問題を呈している人を「クライエント」や「患者」とは呼ばずに、「IP: Identified Patient」と呼ぶことについて、システム論に基づいて説明しなさい。
システム論は、家族や集団を「相互に依存しあう要素から成る一つの全体」として捉えます。この理論では、家族全体が一つの動的なシステムを形成し、家族メンバーはお互いに影響を与え合いながら機能しています。システム内の一部に問題が生じると、それはシステム全体の構造やダイナミクスに何らかの影響があると見なされ、単に一人のメンバーだけが「問題の発信源」ではないという立場を取ります。家族療法における**IP（Identified Patient: 識別された患者）という用語は、システム論の視点を反映しています。IP は、家族システムの中で「問題を象徴的に表現している人物」**として認識されます。つまり、その人物が家族の中で問題を抱えているように見えるかもしれませんが、実際には家族全体のシステムに何かしらの問題があり、その一部としてその人物が問題を呈していると考えます。